

# 石綿を路上投棄

86.10.29  
10月29日

衆院委  
で追及  
米空母から処理業者

神奈川県横浜市の在日米海軍で改修工事中の空母ミッドウェー(五万二千トン)から石綿(アスベスト)が廃棄物として出され、処理業者によって市内の路上に投棄されていた問題が二十八日の衆院環境委員会に取り上げられた。

岩垂寿喜男衆院議員(社会)が「石綿は米国では発がん性があるとして全面使用禁止と

なっているのに我が国では規制が遅れており、今後廃棄が拡大するのではないかと厚生省などの対応を追及した。

石綿廃棄物は六日、横須賀市日の出町三丁目の路上に在日米海軍基地名のビニール袋

に詰められ、他の廃棄物一五トンと一緒に捨てられていた。岩垂議員によると、この

石綿は空母のボイラーパイプの保温機に使われていたもので、基地から運び出され、横浜市や千葉県佐倉市で処理されており、処理場周辺には学校、住宅、病院などがあり

「健康への影響が心配される」と指摘。さらに「基地の中では厳しい規制が実施されているのに、一歩基地から外に持ち出されると、野放し状態では、日本は石綿の処分地になってしまう」と語った。

これに対し、厚生省は「神奈川県、千葉県などと連絡をとって、実態調査を行う」と約束。また、環境庁も「石綿対策を検討したい」と答えた。